

研究・調査報告書

報告書番号	担当
50	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) A 17-year follow-up study of hypertensive and normotensive male university students in Japan. 高血圧および正常血圧の日本人男子大学生の17年間追跡研究	
執筆者 Kawasaki T, Uezono K, Sanefuji M, Utsunomiya H, Fujino T, Kanaya S, Babazono A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Hypertens Res. 2003 Jun;26(6):445-52.	
キーワード 若年高血圧、正常血圧、長期追跡研究、生活習慣、高血圧家族歴	
要 旨 (背景) 若年時の血圧はその後の所見に大きな影響を与えることが知られている。本研究は高血圧の男子大学生を卒業後8～26年間(平均17年)追跡し、疾患経過を調査することを目的とした。	
(方法) 九州大学健康科学研究所で検診を受けた男子学生のうち収縮期血圧140 mmHg以上、または拡張期血圧90 mmHg以上の高血圧者338名(年齢20～27歳)と、可能な限り学部、年齢、身長、体重と検診時期をマッチさせた対照群732名の正常血圧学生(収縮期血圧110～124 mmHg、拡張期血圧60～74 mmHg)を対象として1973年から1990年まで追跡した。1997年に全対象者に身長、体重、坐位血圧、脈拍数、飲酒・喫煙などの生活習慣、ストレス状況、性格などを記入する調査票を送付した。調査票回収率は高血圧群で52.4%、正常血圧群で28.1%であった。	
(結果) 高血圧群の44.6%では高血圧の持続があり、一方正常血圧群の9.2%が高血圧となった。研究終了時までの高血圧発症率は高血圧家族歴を有する被験者では高血圧家族歴を有しない被験者に比べてはるかに高かった。体重増加がもっとも多かったのは当初正常血圧で経過中高血圧になった群であり(平均15.1%増加)、これらの群では喫煙率、飲酒習慣率が高かった。	
(結論) 生涯正常血圧を維持するための重要な一因子として、喫煙・飲酒を含む生活習慣があり、基本的な健康教育を早期に始めることの重要性を確認した。	